

武蔵野市多文化共生推進懇談会 傍聴者アンケート

第5回実施分（令和4年12月13日開催）自由記載欄

【傍聴者 2名】

※傍聴者2名記載

【市内在住、性別回答なし、60歳代】

・p.19「外国人市民」の定義を説明しているBox内の文章ですが、2段落目の文頭に「たとえば…」という表現を入れた方が、何を伝えようとしている文章なのか伝わりやすくなるように思います。

・p.19以降の文章に書かれている内容が、どのように具体化されているのを知りたい…（そして）使いたいと、「外国人市民」も「日本人市民」も考えるのではないかと思うのですが、この文章（プラン）をWeb上でどのように公開し、プランに盛り込まれている情報の「現在進行形」をいかに更新、発信していくのかが問われるように思います。

たとえば、Web上に記載されている「プラン」のキーワードにリンクを貼るようなことが、5年間の施行期間中に、可能であれば、5年後の議論にもつながっていくように感じます。

・可能であれば多摩の隣接市との連携的取り組みを進めていくことができないか…と感じます。各市における経験値&課題を共有する場が公務員の方（行政マン&ウーマン）ばかりでなく、市民にもオープンにされていくと良いのにな…と思います。

【市内在住、女性、40歳代】

・義務教育年齢という言葉について。六長策定時は中高生世代も含めた小学生～18才の子どもを指す言葉として「青少年」という言葉を使っていたと思います。学校に通っていなかったり、高校へ行かず働いている子どもを排除しているように受け取られないよう「青少年」にしました。

・「外国人と見られやすい人」→「外見から先入感を持たれやすい人」はいかがでしょうか？
・“プラン（案）”のふりがなはあっても良いと思います。が、フォントや文字の大きさについては気になっていました。“プラン”にふりがながついてより、ホームページ等でふりがなのカッコ書きがたくさん続くのが気になっています。

・紙版（印刷）の“プラン”ですが、ふりがな付きはたしかに日本語話者には見やすいですが、コミセン等で配布する際にはふりがな付きの方が外国人の方の目につきやすいのではないかと思います（西部コミセンは外国人（日本語話者ではない方）の利用者が多い気がします）。

・“プラン”を学校教育でも使うならば、武蔵野市民科で題材にできると思います。ただ、現場の先生方はどう授業に取り入れたらいいかわからないと思うのと、多忙で熟考している余裕がないと思うので、MIAや交流課の方々のお智恵をはいしゃくして、いっそ授業用のカリキュラムを作成してパッケージごとどん!!と学校に提案するのはアリだと思います。教育委員会と交流課でコラボしてはいかがでしょうか？ぜひ!!

★委員のみなさま、事務局のみなさま、お疲れさまでした。傍聴していて楽しく武蔵野市に希望を持てる会議でした。傍聴者アンケート導入も感謝いたします。プランが市長・市議会に承認されるようお祈り申し上げます。多謝晒!!

（※文字及び文章はアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。）